

蕪高 150 周年 市民講座 第 5 回

2022 年 4 月 23 日（土） 開場 13 時 30 分 @有慶館

『蕪山高校と男女共学』

講師・蕪高教員 阿部澄人（高 35）

蕪高の女子生徒について

はじめに

蕪高に久しぶりに戻って来て、立地や校舎等の施設、自然など殆ど変化が無く、筆者の在学中の昔のままであり、懐かしく思った。

しかし、昔と決定的に異なることがある。それは女子の数の圧倒的な多さである。筆者が在学していた昔とはまるで違うのである。別の学校のように。昔の筆者からみれば「女子校」だ。

筆者は昨年度（令和 2 年度 73 回）に 3 年 B 組（文系）の担任であり、クラス 31 名、男子が 10 人、女子が 21 名であった。筆者が 3 年生の頃は 3 学年の生徒総数 1090 人で 200 人の女生徒が在学し、男子生徒の占める割合は 81%であった。今現在（令和 3 年度）は全校生徒 853 人であり、男子が占める割合が 55%である。感想の実感がわかってもらえただろうか。

このような女子生徒の数を考えると、昔と現在の女子の立ち位置や考え方が大きく違うであろうと考える。そこで、女子生徒に焦点を当て、女子の人数の変遷や女子の様子をみてみたい。

さて資料は第 2 回から第 73 回までの男女の割合、生徒会長の性別、卒業式の送辞・答辞の性別などをまとめたものである。

この表から男女の比率をみて、大きな特徴は以下のとおりである。

- ①1983 年（昭和 58 年）第 36 回から男子の比率が 80%を下回る。
- ②1991 年（平成 3 年）いわゆる「男クラ」（男子だけのクラス）がなくなる。
- ③1996 年（平成 8 年）男子の比率が 60%を下回る。以降 60%を超えることはない。

では時期ごとにまとめ、考えていく。

初期の期間：昭和 24 年（1949 年）から昭和 40 年（1965）

戦後、教育基本法発布等などにより、男女共学が推進され、ついに蕪高にも女子生徒がやって来る日が来た。

昭和 24 年第 2 回の時に蕪高に女子がやって来た。本校 2 年に水口洋子が、1 年には 28 人の女子生徒が入学または編入してきた。本校最初の女子生徒たちである。

「私が転校を希望したのは昭和 24 年。旧制の女子高である三島北高でのんびりしては医学部受験が無理かなと思えたからです。さらにおもいもよらなかったことは早弁でした。私の席は最前列の中程、お互いに慣れていませんし、お昼休みは窓辺や黒板の前で早弁にお方達が遊んでいますので、何となく気後れし、恥ずかしくて遂に昼食抜き。理科室の所在を聞いても照れて教えてもらえなかったり、……心臓に毛が生えているのではないかなどの囁きもチラと聞こえ、乙女心がいたく傷つきました。が、後になって考えますと、我ながら一人でよくがんばったものだ……考えます。お陰様で初志貫徹、還暦を過ぎた今、二人の娘も幼少よりの夢を実現し、家族全員医師として生きがいのある充実した日々を送ることが出来るのも、あの時受け入れてくださった蕪高のお陰と感謝していると共に、祖父や父も学んだ歴史と伝統のある蕪高に在籍できたことを誇らしく思っています。」

水口洋子

< 蕪高百二十年 >

この文面からだと若干余裕が感じられるが、学年に自分ひとりの蕪高生活が不安と緊張の毎日であったと推測される。なお水口洋子は結婚し、鈴木姓となり、令和 4 年 1 月現在も現役産婦人科医師として千葉県で健在である。

学校側も女子生徒をどの様に扱おうかと手探りの状態であることがわかるのが、次の昭和 26 年の女子に対するアンケートを行った資料である。

「わたし達はこう感じている」 - 女子世論調査 -

先般生徒課女子係に依って本校女生徒 177 名を対象とする各種の調査が行われたが……に各種の調査が実施された。以下がアンケート結果である

入学後最も強く感じたこと

- ・ 校友会各部の活発な活動
- ・ 女子設備が割合に整っていること
- ・ 男子に刺激されて向上心が昂められる事

不満に思うこと

- ・ 教室が汚れている
- ・ 先生と生徒の間に親密さを欠くこと
- ・ 一部生徒の無理解と不作法等

男女共学の問題に就いて

- ・ 男生徒との接触を明朗、緊密にせよ
- ・ ホームルーム、教場内の出席等に就いて差別を設けるな

学校への要望

- ・更衣室の拡張
- 裁縫室の新設充実、傘置き場の設置

最も戒心すべきこと

- ・女らしさを失わない様にしよう
 - ・男女間の交際を慎重にすべき
 - ・華美な服装を避け度い
- ・・本校女生徒が地味な態度で着実な勉強を望んで居る事がうかがわれる。

以上が本調査に表れた主なものであるがこの調査の結果は既に職員会議の検討を経て目下生徒課を中心にその対策が練られている。

＜ 蕪高新聞 昭和26年7月19日 ＞

蕪高に女子生徒がやって来て3年になるので、このように、女子生徒に特化したアンケートを実施し、女子生徒の考え方を知ろうとする努力をしている。しかもアンケート結果を蕪高新聞に載せている。蕪校が丁寧に女子生徒に対応しようとしていることがわかる。

同年の松籟（復刊）第1号には男女共学や、女子に関する記述が多い。やはり、女子生徒が来たばかりなので、注目度が高いようである。以下抜粋する。

○ 校内展望

四 校内と風紀

次に眼を一般の生徒に転じてみよう。

最近の経済状況の立ち直って来たことも大きな原因が、男女共学になって全生徒の服装の整って来たのは結構なことだ

が、最近、中にはその限界を踏み越す者が見られる様になって来たのは誠に遺憾なことである。男生徒がお洒落をしても高が知れている。併し女生徒はそうは行かない。クリーム位は良いとしても白粉をつけたり、口紅を薄く塗っているらしく思われるのがいるが、それ等は蕪高生として絶対に許されるべきでない。学園に於いて女子が華美に流れればそれは風紀紊乱の最大の原因を為すであろう。

○ 文化部概観

廿五年度より新しく誕生した家庭部については未だ云うべきことはない。

女ばかりの部、発展を祈のみ。

音楽部

入部者は女子が圧倒的に多く石垣先生の御援助もあって計画は着々と進んだ。そして迎へた藝能祭全員励まし乍らやり終へた僕等に、とにかく批評も多い。然し、僕等は信ずる。この道より進むべき道はないと。

家庭部

男女共学の初めての実施された我校に、女子の爲設けられた家庭部は秋津、梅原兩先生の御指導下に於て活動している。…如何に女性に対し自由が認められたからとて、女子は家庭生活から解放されはしない。…自主性がない爲か、部員が團結せぬ爲か、活動が不活潑である。

文化祭を顧みて

めざましくなった女生徒の活動

男女共学となつてから二年、この間女生徒は色々と非難を受けて居た。然し乍ら今年の女生徒の活動は、藝能祭出演者は勿論の事、全般を通じて男子にも優るとも劣らなかつたと思ふ。今後も本校発展の爲儘力してもらひたい。

3B 野田孝司（自治委員長 校友会幹事）

以上をみると、男子生徒から女子生徒を見る（評価）際に同じ目線というよりは、かなり上から目線（お手並み拝見という感じ）で女子生徒を見ている様子が強い。では教員は入学したばかりの女子をどのように評価しているのだろうか。これも松籟第1号である。

藝能祭を語る

鈴木莊泰先生
市川良輔先生

昭和二十五年度の藝能祭は女生徒の初参加を得て、十月十二日新日本劇場に於いて行はれ音楽部の合唱及び演奏に引き續き「つゆ空」「次郎案山子」が上演され、盛大裡にその幕を閉じたが、その直後、今年の藝能祭を顧みて鈴木、市川兩先生に祖にお感想とか批評をお聞きした。

市川 男女共学になつて来たのであるから、演劇よりも音

楽に対する評価を重くしても良いのだが。

…

女子による合唱がなされたようだ。曲目や女子の人数など詳細な資料がないが、現在の式典の際の音楽部の校歌斉唱のように歌うのだろうか、是非様子を知りたいのだが。教員が女子生徒をみる目は親が見守るような気持ちであろう。なお「新日本劇場」とは三嶋大社東側にあった映画館で、現在大社の駐車場になっている場所である。戦後にできた劇場であった。当時の藝能祭は三島で行われたことがわかる。

女子生徒の活躍は藝能祭だけにとどまらず、運動部の大会にも早くも見る事が出来る。

運動部概観

庭球部

第十九回山静大会庭球の部は男子が甲府縣営コート女子が甲府工業内で行はれました。県対抗殲滅戦でした。…女子の高井出組は山梨の國体行に完全にノックアウトされそうでしたのに、相撲部諸君の猛烈な応援入るやが然活氣ずき、かってない好調で忽ち挽回…

この後、結局相手の国体代表にやぶれてしまうが、大健闘であった。ところで、なぜ庭球部の試合の応援を相撲部が行い、そのために山梨までどうやって行ったのだろうか。

また日々の部活動にも参加し、大活躍した女子生徒もいた。

当時病弱だった私が、母のすすめで、男子校のテニス部に入部し、そのきびしさに耐え、往復二時間あまりの夜道を、こがらしの道を、…希望に胸ふくらませかよい通した思い出は、一生忘れることが出来ません。全く男子と同じ経験をし、苦しかった夏の水汲み、草取り、名物小屋でのお説教、たしかバケツの水を頭からかけられたこともありました。おかげで私の体の方はいつの間にか丈夫になり、つらい事が多くても、…素晴らしい先輩・仲間にも恵まれ、そこにはコッペパンをかじりかじりの、真面目で楽しい青春がありました。

昭和 27 年 第 5 回 小林（旧姓高）弘子
蕪山高等学校庭球部の歩み 蕪山高等学校庭球OB会

運動部では部活の中心となり、素晴らしい戦績をあげた。練習の様子も男子に交じって汗を流し、まさに青春している様子である。現在とほとんどかわりがないではないか。

別の角度からみてみよう。女子生徒側から蕪高に慣れようと積極的に松籟に投稿している。

文苑

美しい學校 一年 江口 綾子

よく女子が入学したのに、ちっとも学校が美しくならないという聲を聞きます。…今の学校の雰囲気、女生徒が、思う存分その様なことができない様にしているということ。人数が少ない為かもしれませんし、女生徒が無気力な為かもしれません。殊に一年生の場合、女子だけのホームルームだけですから、よその組のお掃除を手傳つてあげたいなどと考えても、実行しにくいです。…しかしこの様なことなどは理想的な共学になればすぐに解決される問題ですし、そうなれば学校美化も一段と向上することでしょう。…一人ひとりの自覺によらなくてはなりません。私たちの学校をきれいにするの私たちだけです。

昭和 26 年 松籟復刊 1 号

蕙高女子生徒が男子生徒に一步も引くことなく、男子や学校側に要望を出し、意見を述べている。

またこの文から、この当時女子生徒だけのクラスがあったことがわかる。卒業アルバムからも、昭和 29 (1954) 年までは女子だけのクラスがあったことがわかる。男女を同じクラスにしないことで女子だけのクラスをつくり、その方が把握しやすさがあったのだろう。

次に女子生徒が蕙高にやってきて約 10 年後の昭和 36 年に、「男女共学」と題してある女生徒の主張が松籟に掲載された。少々長いが全文を載せる。

男女共学

久保田登志子

私は男女共学については、男女が人間である以上、まったく当然のことで、あらためて言う必要のないことだし、考えてみたこともなかった。しかし、実際問題として、男女の教育の場が高等学校の進学先をみてもわかる様に、だんだん別れて来つつある様に思う。又、男女共学についてとやかく云われたりするが、なぜこの様になって来たのか考えてみた。

戦後民主主義国家として出発した日本は、約十年の年月を経て、その間行われた諸制度について、色々批判や反省がなされている。今日、軍備が出来、家族制度の改正、労働法の改正など、とやかく云われるが世の中が民主主義からだんだん離れて行くように思う。

男女共学の問題も、これらの諸問題と並行して 云われ出したのだと思う。これは、古い頭の持主が社会に於て、頭をもたげて来ていることを示すのではないであろうか。実際、自衛隊なるものに於ても、アメリカの顧問をのぞいて、地位のあるのは旧軍人だと云うし、人間の基本的な人権に於ても随分問題が多い。

これは戦後からの民主教育がうまく行われていないことの一例だと思うなぜうまく行われなにかについて、国民が民主主義を良く理解し、積極的に民主主義を実行しなかったためだと思う。しかし、この民主主義は、アメリカから与えられたものにまず原因する。従って私達に大きな原因のある男女共学についても、男女学問の面でも区別される様にはならないとは云えないわけである。

又この男女共学の問題と女性の地位の問題は、大きな関係があると思う。女性は社会的な参政権もあるし、一応は地位は男性と変わらない様であるが、実際は家庭内の女性の地位は他国と比べてかなり低いと云うことは、誰もが認める事だと思う。この女性の地位を高めることは、非常に大切である。民主主義の原理から云って、女性が同じ人間であって、しいたげられてはならないと云うことだ。女性の地位が低いことは、家庭の民主化をにぶらせ、ひいては、社会全体の発展をさまたげる。地位を向上させるには、人間として平等だと云ってみることはむろんであるが、やはり、社会に於て実力をもたねばならない。もっとかしこくならねばならない。そうすれば、必然的に女性の地位はだんだん上がっていくだろうと思う。そのためにも、広く勉強しなくてはならない。

もし、男女が別々の教育を受け、男と女とは別ものの様に教育され女は男に絶対服従し、家庭にとじこもり、せつせと働くのが一番立派などと云う考えを教わるとしたら、まったく不合理きわまるものである。戦時の様に、女性は社会的に盲目的になってしまい、何もわからず、戦争に協力してしまう結果にもなる。とにかく教育は国を動かす原動力となるものである。これが、政治によっておかさされたりすることは最も恐ろしいことである。だんだん世の中が反動的になって来ているときに、ぜったい教育だけは正しく行わなければならない。その上からも、共学を始めとして正しい教育をまもらねばならないと思う。

昭和 36 年（1960 年）度 松籟 12 号

戦後約 10 年経つと、民主化もなかなかすすまない状況がでてくる。それは教育の面でも同じであり、特に蕪高においては強く感じるころであろう。久保田登志子に令和 4 年 1 月に当時の心境を尋ねたところ、「当時は女子生徒がとても少なく、同じ学年の女子生徒は 13 人であった。人が少ないため、部活がなりたない、好きな部活ができない。悲しかった」と嘆いていた。女子生徒が少ないため、部活のみならず、色々なことで制約を受けることがあり、このような思いから松籟に寄稿したのである。

最初の卒業生である水口洋子の事例をあげたが、男子が多い蕪高に、あえて転入を希望する女子もいた。

三島北高に入学したが、高 2 から蕪高に転校した。父親は高校進学の際には、蕪高は女子が少ないから反対した。しかし、天城から通学しており、経済的理由と、進学のこと考慮、転校を決意した。他校からの転入生は私をいれて 2 名であった。

昭和 33 年 第 10 回谷島（旧姓植松）久子

進学、進路のこのことを考慮すると、転入試験もあったが、あえて男子の多い蕪高で学ぼうとするチャレンジ精神は尊敬に値する。時期は大分あとの昭和 50 年代になるが、なぜ蕪高を希望したかをたずねてみると次のような理由を述べた女子がいた。

三島北高だと、「女子らしくやれ」と言われそう。蕪高は実は男女の性差はない。なぜなら、試験の点で評価する。だから対等である。人として認めてくれる。

勉強すると、中学だと「ガリ勉」と言われる。蕪校は言われぬ。皆勉強するから。中学と

比べ、暮らしやすい。また、中学の先生から「貴女は気骨があるから蕙高へいけ」と励まされた。

昭和 58 年 第 35 回 渡辺（旧姓鈴木）靖乃

現在の女子はどのような理由で蕙高を希望しているのだろうか。学習面において優秀であるから希望するのではないか。やはり、女子が少ない時期は、蕙高を希望する女子生徒はしっかりと自分の考えをもち、自律しており、チャレンジ精神にあふれている生徒であった。筆者は渡辺靖乃と同じ中学校で蕙校の同期であるが、やはり学習面が優秀だけではなく、自らの目標をもち、光り輝いていた思い出がある。

戦後の時期、蕙高に女子生徒がやってきてから、女子が男子生徒からいじめられ、学校で小さくなっているのかと心配していた。ところが女子生徒は悩んだり、憤慨したこともあるが、のびのびと蕙高生活をおくっていることがわかり、ほっとしてる。

昭和の後半の時期：昭和 41 年（1966 年）から昭和 63 年（1988）

この期間は筆者が在学した時期でもあるが、相変わらず男子が多い状態である。しかし、この期間の終わりころから少しずつ、女子の割合が増えていく。また顕著な活躍も見られるようになった。

女子生徒と言えば、制服である。昨今では制服で志望校を決める受験生もいるようだ。蕙高の女子の制服は言わずと知れた黒のブレザーである。第 22 回の女子から入学時にブレザーになった。ブレザーへの変更は女子生徒からの要望があったようだが、詳細ははっきりしない。前年度の会議の様子をみよう。

昭和 41 年 12 月 7 日の職員会議録から

教頭：女子の制服（夏冬共）を変えるかいなか。

賛成 27 名

反対 0 名

校長：一般的に女性はセーラー服にあこがれていないのではないか。

…又受験の方にも関係してくる為、問題もある。

校長の発言の真意はよくわからないが、とにかく制服の変更は決定した。そして丁寧に女子生徒にアンケートを取っている。制服を変更することは大きなことなので、さすがにアンケートを採ったのであろう。

女子制服に関するアンケートの結果（42 2 17）

I 冬服について

a

| | |
|------------|----|
| イ 現在のままでよい | 36 |
| ロ 改めた方がよい | 48 |
| ハ どちらでもよい | 10 |

b (aのロに○をつけたもの)

| | |
|---------------|----|
| イ 4つボタン、ダブル背広 | 31 |
| ロ 6つ " " | 18 |
| ハ その他 具体的に | 1 |

c 背広の下は

| | |
|------------|----|
| イ ワイシャツ | 13 |
| ロ シャツブラウス | 20 |
| ハ その他 具体的に | 15 |

II 夏服について

a

| | |
|---------------------|----|
| イ 現在のままでよい | 28 |
| ロ 真夏の服装だけを認める | 26 |
| ハ 真夏の服装を改め、夏の間服を定める | 39 |

b (aのロに○をつけたもの)

真夏の服について

| | |
|------------|----|
| イ ワイシャツ | 4 |
| ロ オーバーブラウス | 56 |
| ハ その他具体的に | 3 |

c 間服について

| | |
|---------------|----|
| イ ワイシャツとベスト | 11 |
| ロ シャツブラウスとベスト | 26 |
| ハ その他具体的に | 7 |

III スカートについて

| | |
|------------|----|
| イ 現在のままでよい | 29 |
| ロ 3本ヒダに改める | 40 |
| ハ 2本ヒダに改める | 22 |
| ニ 具体的に | 1 |

IV 制服の色について

| | |
|-----------|----|
| イ 黒 | 38 |
| ロ 紺 | 18 |
| ハ どちらでもよい | 28 |

学校の歴史を調べていると、思ったより学校が丁寧に対応していることがわかる。何回か、このように何かを決定したり、変更したりする際に、生徒にアンケートを実施するのだ。思ったより、生徒の意見をくももうとする姿勢には好感が持てる。筆者の在学中は全くそのようなことは感じられなかったが。

制服がセーラー服からブレザーに変わった最初の年に入学した女子生徒であった卒業生が、その際の感想を述べている。

自分たちの代から女子の制服がブレザーになった。2, 3年生の女子生徒はセーラーであった。色は黒か紺から選べ、入学 50 人中、紺色は 2 人で残りは黒色を選択した。入学時に夏服は決定しておらず、女子生徒自身がボタン、襟の形など決めることができた。制服も生徒の意見を尊重してくれる素敵な学校だと思った。

冬服の防寒着についても、先生が「女性のことはよくわからないので、冬寒くならないようにしてください。」と優しい言葉をかけてくれ、セーター、コートそして靴、ブラウスなど多少自由にしてくれて髪長さや、リボンがひらひらなど自由にしてくれた。

ところが、先輩の女子生徒に呼び出され、「体育の授業をブルマーで受けるな、自覚が足りない。」と注意され、夏の暑い時期でもトレパンを履いた。

昭和 45 年 22 回 鎌田（旧姓）中村眞佐子

紺色の制服を是非見たかったが。

この時期の囲碁将棋部女子の活躍が素晴らしい。静岡県予選では葦山 A と葦山 B の動向対決が実現し、東海大会では葦山 A が優勝した。全国高校囲碁選手権大会では 6 位と立派な成績を収めた。

「顧問の中村先生や先輩方に一から教えていただき、結果は 6 位でしたが全国で準勝した先輩方の伝統を受け継ぐことが出来たのではと思います。当日は大学生になった囲碁部の先輩方などが応援に駆けつけてくれて、棋譜も取ってくれたり、縦のつながりのありがたさを感じました。」

昭和 59 年 35 回 伊丹理香

また、空手部も女子の活躍が見られた。全国大会で上位の成績を残したのである。

関根空手全国三位！

武道館にて行われた第二回全国高等学校空手道選抜大会、この大会において第三位という輝かしい成績を収めたのは、我が校の関根真美さんである。…空手の有段者という肩書

とは別に・・・琴を習っている・・・免許皆伝・・・助教の免状をもっている・・・まさに動と静を兼ね備えている魅力的な女性である。

菫高新聞 第 137 号 昭和 58 年 6 月 17 日

兄の知り合いが空手部の主将だったので、入部した。空手はやってみたら面白い。顧問の北条先生は個性に合わせた練習メニューを考えてくれた。男子にはきついが、女子にはあまかった。

昭和 58 年 36 回 関根真美

また、この女子の部活動、特に運動部についての言及があった。

運動部での女子の受け皿少ない。中学では違う部活動に所属していたが、女子バスケットボール部に入部した。

昭和 58 年 第 35 回 丸山（旧姓瀬川）恵津子

「女子」の名称がつく部活、つまり女子だけの独立した部活は女子バスケットボール部だけである。これは現在でもかわらない状況である。

平成の時期：昭和平成元年（1989 年）～現在

平成 6 年は男子生徒数が全生徒の 62%、女子生徒が 32%までになるともはや、私が在籍していた昭和 50 年代とは様相が大きく変わる。この年の松籟にはこんな内容が特集されていた。

特集 「高校生の人間関係」

- ・第一部 友人関係
- ・第二部 男女関係

(1) 恋愛への第一歩

- 1 好きな人いますか。
- 2 理想的な人とは？
- 3 異性の友人と好きな人との境

(2) 片思いのどこが悪い！

(3) 歩進んだつきあいかた

1. 短命なカップル
2. 失敗するケース
 - その① 自己陶醉型
 - その② 完全理想型
3. ギブ&ギブ
4. よりよいつきあい方へ

・ 第三部 上下関係

松籟 87 号 1994 年度（平成 6 年）

筆者はこれを見て驚愕した。なんなんだこれは。恋愛に関する特集か？男の子の息吹きはどこへ行ってしまったのだ、と。恋愛とは非常に個人的なことであり、指南書のようなもので解決できるものではない。しかし、考えてみれば、男子の比率が 62% となり、女子と仲良くしたい、というより「つきあいたい」という恋愛感情に悩む蕙高の「男（お）の子」が数多くいても不思議はないだろう。

平成にはいると、女子生徒の数が増加してゆき、それに伴い男子の占める割合が減少してゆく。平成 4 年には男子の割合が 60% 台になり、平成 8 年にははやくも 50% 台に突入する。それに伴い男女共学に関する記事、記載が多くなることは必然的なことであろう。

そして、このことを痛感しているのは生徒よりも教員であろう。

「男子の気噴吹き吹き明かれ」の今日的意義

太田昭一

十三年前に、この学校に赴任した当時、女子生徒の数は一学年七十人前後であった。その後年々増加し、今では全生徒の四割を占めるに至っている。

・・・私の扱う倫理という教科の中では、「男女平等」ないしは「男女同権」についての学習も重要な内容の一つであるわけだが、かつては圧倒的に男子の多い本校に入学してきた女子の勇気に敬意を払いつつ、男子生徒に対して「男女平等」や

「男女同権」の意義を理解させるという傾向の授業となっていた。女子の数がここまで増え、新しい学習指導要領の施行により、家庭科が男女共教になったこの機会に、改めて、男女の平等、家庭生活や社会生活に於ける役割分担の在り方について、男女対等な立場に立ってどう考えるべきか、私見を述べておきたいと思う。

- 一、男女の本質的平等とは
- 二、労働基準法と男女雇用均等法
- 三、女性解放補国際的胎動

…

六、男尊女卑の起源

七、エブリボディー ビー アンビシャス

…従来「ボーイズ ビー アンビシャス」といわれ、蕪山高校の校歌にも、「男の気噴吹き明かれ」となっている。いうまでもなく男性中心の社会的背景のもとで生み出された名言である

が…ただ私は授業に当たっては、敢えて「エブリボディー ビー アンビシャス。」という表現を用いているが、

…女子生徒が増大した今、もう一度声を大にして言いたい。

「エブリボディー ビー アンビシャス。」

龍城論叢 第十八号 1996年 平成8年

女子生徒が蕪高に多く入学してくるなかで、男子生徒はもちろんだが、気を遣わなければならぬのが教員である。だから太田昭一先生の考えに全く同感である。「エブリボディー ビー アンビシャス。」良い言葉である。

この時期の大きな注目すべき点は、平成3(1991)年に男子だけのクラス、いわゆる「男(だん)クラ」がなくなることであろう。筆者が3年生の時には理系だけでなく、文系にもあり、文系4クラスで1クラスが男クラであった。(私は1年生のクラスは男クラであった。)ちなみにこの文系の男クラは卒業後一度もクラスの同窓会を実施していない。

平成になると、女子生徒の活躍が顕著になってくる。まず、卒業式の送辞と答辞を担当する生徒は女子の数が多くなる。冬至はなんと平成6年から8年連続女子生徒である。また生徒会長は平成26年から3年連続であった。

初的女子による生徒会長は昭和45年の梅原敬子であった。ただ、当時はまだ生徒会が発足しておらず、生徒自治会があり、会長の当時の名称は「執行委員長」であった。(ちなみに昭和45年度の松籟は担当の仕事怠慢等で発行されなかった。こういうこともあるのだな。なかなか見つからず、探してもないはずだ。)

平成11(1999)年に久方ぶりに岡本真美が女子生徒として生徒会長に就任した。翌平成12年には岡本真美が会長、副会長も女子である。さらに龍城祭の文化祭実行委員長、体育祭実行委員長、後夜祭実行委員長が全て女子生徒が就くということになった。この年度は女子生徒抜きでは蕪高はなりたたないであったろう。

令和3年度になり、現在で筆者は授業を5集団受け持っているが、4集団に男女共学に関するアンケートを実施した。その中の1項目について結果を見てみる。

現在の校歌の歌詞に「男の気噴く吹き明れ」とありますが、女子の数が増えたため、歌詞を変えるべきだと考えますか？

結果

男子(57人)

| | | |
|---|--------|------|
| あ | そう思う | 12% |
| い | そう思わない | 53% |
| う | わからない | 35%% |

女子（56人）

| | | |
|---|--------|-----|
| あ | そう思う | 21% |
| い | そう思わない | 61% |
| う | わからない | 18% |

歌詞を変えるべき理由としては(男女とも)

- ・違和感を感じる。
- ・男女が対等な関係であるならばそれを明示すべきである。
- ・ジェンダー観は変化しているから

歌詞を変える必要は無いとする理由は（男女とも）

- ・学校の中の歴史であるため。
- ・もともと男子校であったという歴史を知るのに良い。
- ・校歌は伝統的なものだから。

校歌の歌詞については、生徒が考えていけば良いと思われる。男女共学について考える材料にもなろう。

また別な設問として、

あなたにとって理想的な蕪山高校の男女関係とは

結果

- ・仲良く助けあえる。(2年)
- ・自立した人間としてお互いに尊重できる関係。(2年)
- ・遠慮や壁が無く、お互いに飾らずありのままの姿を受け入れてもらえる関係。(2年)
- ・女子も生徒会長や軍団長などのリーダーに立候補しやすい環境や男女関係になれば良いと思う。(2年)
- ・お互いが尊敬し、思いやって助け合える関係。いまの状態のままでいたい。(1年)

アンケートを実施してみて、生徒は皆男女共学について、まじめに答えており、特に右の最後の項目には、良く考えていることが分かった。歴史と伝統を踏まえ、今後の蕪高の男女共学について注視してみたい。